

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

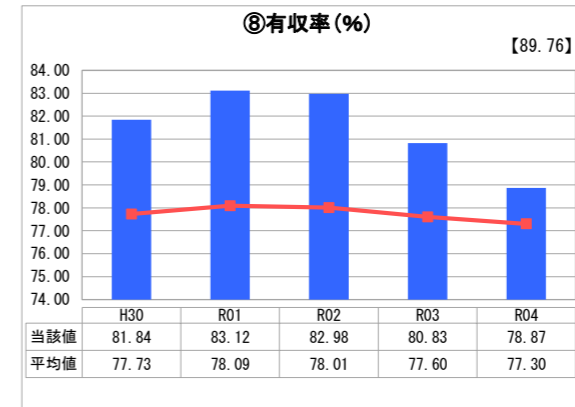
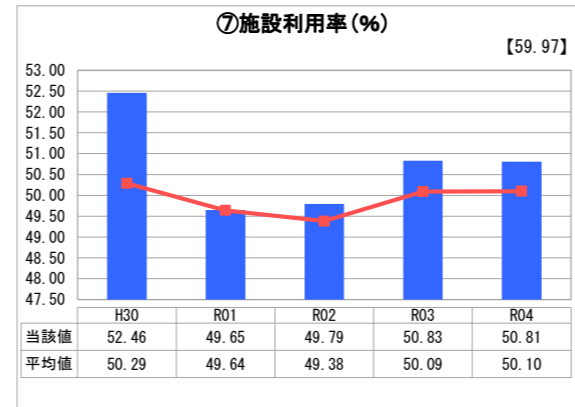
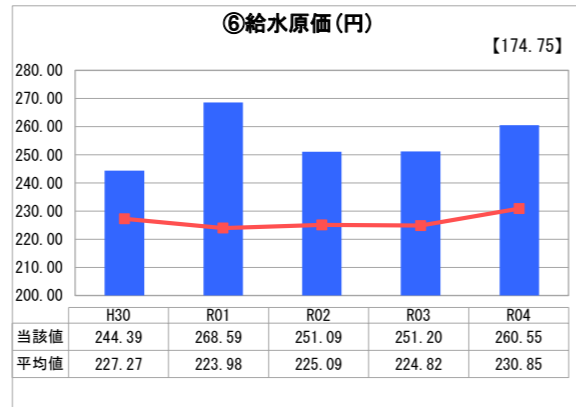
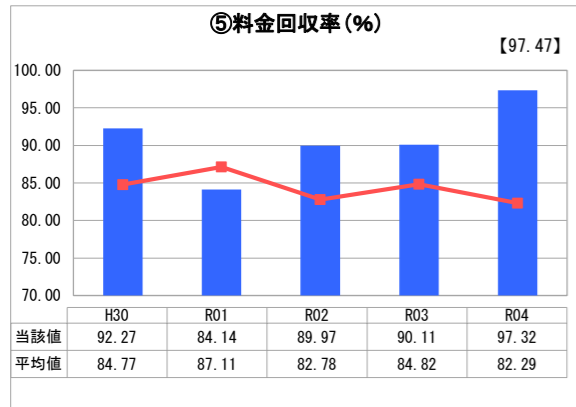
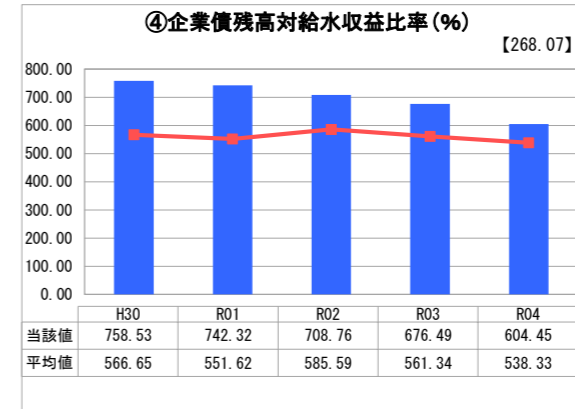
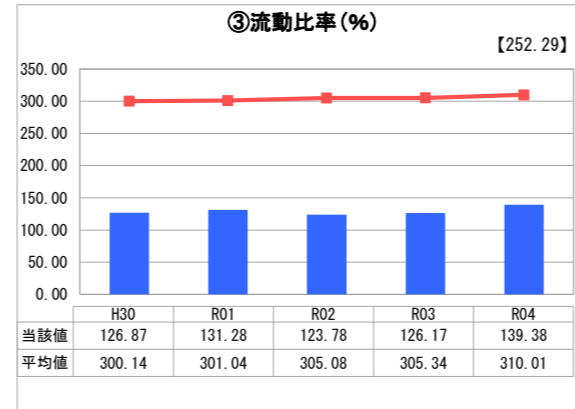
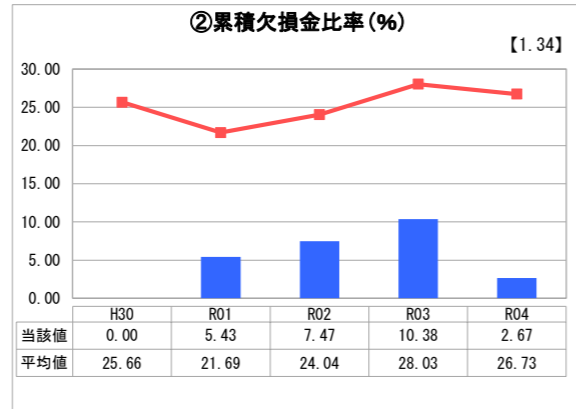
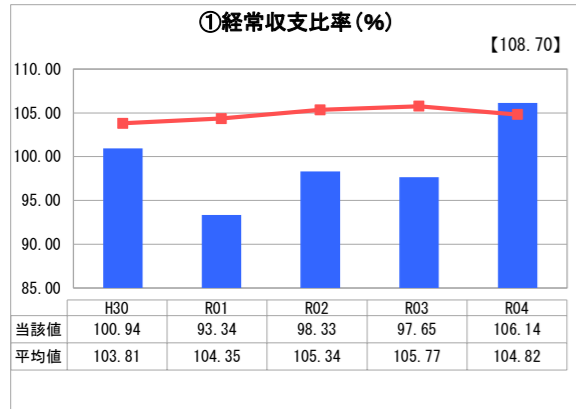
岩手県 岩手町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	53.49	76.30	4,829	

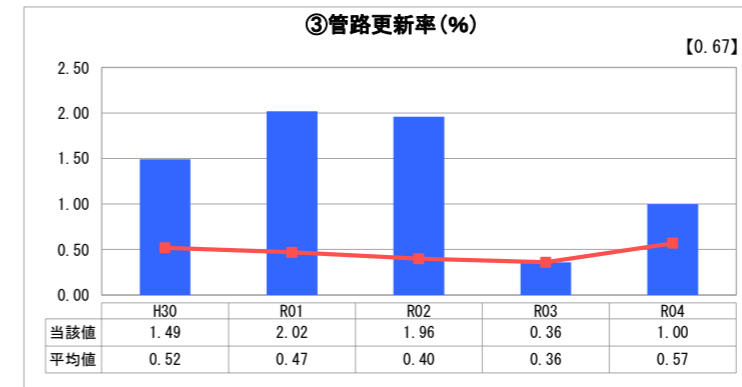
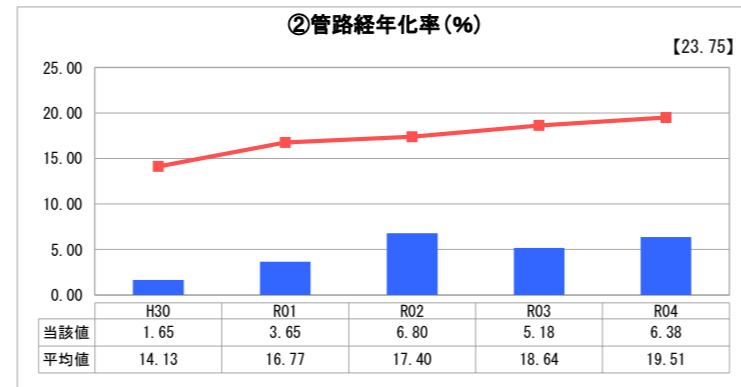
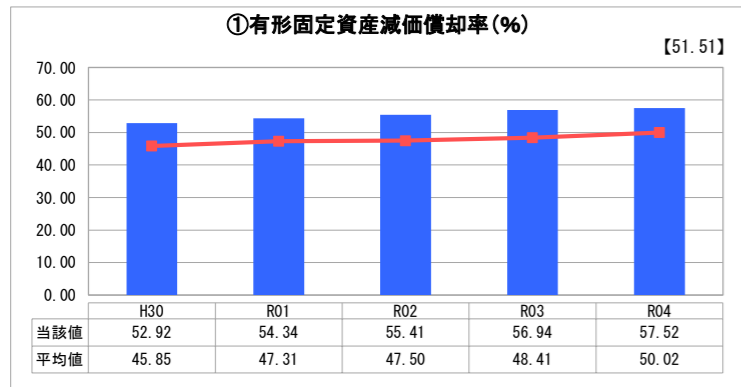
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
12,133	360.46	33.66
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
9,189	38.84	236.59

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和4年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は、令和4年度から料金改定を実施したことにより黒字化となりました。但し、使用水量の減少から想定した増収より少ない収益の伸びとなっています。また、物価高騰から動力費や薬品費など費用が増え、経営は厳しい状況となっています。

② 累積欠損金比率は令和4年度の黒字により減少しましたがまだ欠損金残高が残る状況でした。料金改定は令和8年度まで段階的に料金値上げを実施予定であり、令和5年度には欠損金が解消される見通しとなっています。

③ 流動比率は、当町では債務支払高が大きいため、平均に比べ低い比率となっています。

④ 企業債残高対給水収益比率は、平均より高く、債務返済の負担が大きいくことを示しています。

⑤ 料金回収率は料金改定により改善しましたが、依然100%未満であり、料金収入が十分ではないといえます。今後の料金改定で改善を図ります。

⑥ 給水原価は、当町では高低差が多い地形のためポンプ施設が多く、また川水を利用しているなどの理由により平均よりコスト高となっています。

⑦ 施設利用率は全国平均より低い水準にあります。今後更に給水需要の減小が見込まれるため、適正規模の検証、アセットマネジメントに基づく施設更新計画により効率化に努めます。

⑧ 有収率は、前年に比べ無効水量が増加したことからの有収率の低下となりました。漏水調査の継続と修繕を行い有収率の向上に努めます。

### 2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は、資産全体がどれだけ古くなっているかで、更新の必要性を表しています。当町は約57%となっており平均よりやや老朽化が進んでいる状況です。

② 管路経年化率は、耐用年数を超えた管路の割合で、管路の老朽化の度合いを示しています。耐用年数を超えた管路については、アセットマネジメント等の計画に基づきながら老朽管更新を進めます。

③ 管路更新率は、その年度に更新した管路の延長割合で、管路の更新ペースや更新状況を把握することができます。当町では平成28年度より計画的な更新を行っています。

## 全体総括

当町は地形及びその他の要因等により費用がかさみ、また企業債(債務)の負担が大きいくことから経営状態が厳しく、資金も徐々に減少している状況です。

また施設等の老朽化は、今後は大幅な更新が必要となることが見込まれます。

現在の人口減少社会において、今後、料金収入の減少により経営状況が厳しくなるなか、更新費用も確保しなければならぬことから、経営の効率化及び適切な更新計画の策定・実行が必要となります。

令和4年度から料金改定を実施しており、経営状況を勘案しながら数年かけて段階的に値上げ改定をする予定です。

収支の黒字化、資金確保に向けた取り組みを進めていきます。